

◆ 中止のお知らせ

2021年1月13日(水)のお話を楽しむ講座
「田口祐子さんのおはなし会」は、感染症拡大防止のため中止いたします。

次回講座のご案内(予定)

● 物語を楽しむ講座

- ・テーマ「大人にも読んで欲しい物語」
- ・課題本『赤毛のアン』新潮文庫
- ・日時 1月27日(水) 10時～12時
- ・会場 熊本市立図書館 集会室

● 絵本を楽しむ講座

- ・テーマ「絵本を開けば物語」
 - ・日時 2月3日(水) 10時～12時
 - ・会場 熊本市立図書館 集会室
- 閉講講座 お話の世界を楽しむひととき
- ・日時 2月24日(水) 10時～12時
 - ・会場 熊本市国際交流会館

※感染症拡大防止のため、参加ご希望の方はFAXかメールでお申し込みください。(定員あり。先着順)
尚、社会状況により開催状況や会場などに変更が生じる場合がありますので、最新情報については当研究会ホームページで確認をお願いします。



本はともだち！

日頃よく行く丸善丸の内店の2階に1年ほど前から平置きしてあった『目撃 霊探偵城塚翡翠』(相沢沙呼著)は、題名と表紙女性のイラストが印象的で、図書館に予約を入れていました。今年の10月にやっと借りることができ、一連の殺人事件に纏わる推理小説仕立てなのですが、気持ちいいテンポの文体に乗せられて1日で読み上げてしまいました。作者の文体に魅せられた私は、出世作とされる『小説の神様』も早速図書館で借りてきました。

中学生の時に新人賞をとってデビューした高校2年生の職業作家千谷一也は、出版する本の売り上げが伸びないと、ネットでの酷評に自信を失っていた。そこに担当編集者から持ち込まれたのが、同年代の売れっ子作家との共作。しかもその作家が先日自分のクラスに転校してきた美少女という舞台設定。ネットの暴力に振り回されながら、小説には何らかの力があるのか、何故自分は小説を書くのか、自分の存在に価値はあるのか、と主人公達は真面目に思いつめ、叫び合っ。

ネットがなかった頃に学生時代を過ごした私

にとって、世界は自分が直接顔付き合わせ、話し合える人々だけでした。ひどいと思う扱いを受けたこともあったけれども、直接のやりとりであったことから、自分なりに折り合いをつけることもできました。現在の若者たちは、相手の顔が見えないネットとの世界とも付き合い大変だなと思います。しかし、そのような厳しい社会の中でも、若者たちは、昔の私たちと同様に青臭いことを考えてくれているのだと嬉しく思いました。千谷の自分に対する自信の無さの描写に男児の心理をうまく書いているなと思ったら、作者は男性でした。ネットで調べるまで知りませんでした。

母(幸子)の誕生日の直前に会いにゆき、白いカーディガンを持って行きました。研究会の方からいただいた誕生日祝いのメッセージを読んであげたら、嬉しそうにしていました。ありがとうございました。

(横田 真)

編集 池田・金子・田原・堀 イラスト 安田

特定非営利活動法人

熊本市子どもの本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区 西原一丁目一五の二四

fax 096(382)5090